

# OSFだより

第107号 2011(H23)年4月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138  
osf-midori1911@coda.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com  
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

## がんばれ日本、がんばれOSF

会長 岡本 正

3月11日財団事務所で、友人と会っていたその時、大地震がやってきた。地震国日本に生まれて、この歳になるまで数えきれないほど大小様々の地震に出遭って、慣れっこになっているはず。それが今回ばかりは驚いた。

その日のうちから、国内・国外のOB、留学生、さらに関係者から、次々と見舞いと激励の言葉が入ってきた。みなさん自分のことのように心配してくれている。

正直言ってこれには感動した。表題は激励の言葉の一つである。本当にありがとう。感謝、感激だ。

財団を作ってちょうど20年目だが、作ってよかった。心の底から嬉しく思っている。

と同時に、皆さんが日本のことを心配して下さるように、はたして日本は復活できるのか？財団は継続できるのか？

私は「絶対大丈夫です。必ずまた立ちあがります。」と答えた。

私の経験を述べてみよう。

敗戦の年、私は当時22歳。大学から陸軍にはいり、四国の部隊に派遣されていた。(この時不幸にして、海外へやられた友人の多くは戦死)

敗戦日の少し前、船で瀬戸内海を経て大阪へ向かった。

最初に呉(広島県)の軍港へ立ち寄り、私はびっくりした。当時海軍の拠点は横須賀・呉・佐世保で、戦争開始の時点では、アメリカを上回る海軍力だった。これが完全に破壊されていた。戦艦・航空母艦・潜水艦等すべてが沈没、半壊または艦底を上にしてひっくり返っていた。今、テレビに映る東北各地の港の被害をはるかにしのぐ大損害。日本海軍の全滅だ。

呉を出て神戸・大阪へ行った。ここは東京に次ぐ大都市で西日本の中心。それが焼け野原だった。今回の災害をさらに上回る。命の助かった市民が放心

状態で食物を求めてさまよい歩いていた。一口で言うとうと地獄だ。全国の都市はほとんど同じような状態だったろう。

次に戦いが終わった後、広島へ行った。原爆投下後一カ月もたっていない頃だった。私が高校の時、3年暮らした懐かしい街だが、見渡す限り何もない。当時人口40万の大都会が消えてなくなっていた。原爆投下と同時に一瞬にして10万人以上が死んだ。その後の5年間で犠牲者は20万人以上になった。

もう立ち上がれないと思っていた日本が、その後の躍進で世界第2の経済大国になった。今度の災害でも、日本人の沈着冷静さ、助け合い精神の強さを改めて感じている。私は今回も必ずや立ち直ると確信している。

もう一つ、問題になっているのは原子力災害である。

広島市は原爆投下後さまざまな風評が流れ、50年間は草も生えないし人も住めないと言われた。

しかし、3か月もたつと青々とした草が芽を出して、続いて花も咲いた。山も緑になった。敗戦後なにも食べ物のない時は道の草まで、芋のツルまで食べた。私の故郷は広島県だが何の障害もなくこの歳まで生きてこられた。

確かに放射能は恐ろしい。しかし、過度の心配は必要ない。科学上安全であれば毎日でも福島の野菜を食べて、牛乳を飲んでも大丈夫だ。福島の農家は風評被害で苦しんでいる。

日本にいる留学生の皆さん、過度に恐れるあまり、精神的に不安定になったり、風評に惑わされたりしないようにしてください。

日本が千年に一度という未曾有の災害に遭遇している現在、ちょうど日本にいて自分は運が悪かったと思わないでください。

日本が一致団結し、不屈の精神でどのようにして復興を成しとげるか、しっかり学んでください。貴重な体験をチャンスと考えて下さい。

劉 若一（奨学生） 中国（吉林省）  
東京工大 社会理工科 人間行動システム専攻



### 留学生活を通じて自分で成長したと思えること

日本に来てからあっという間に4年間が過ぎました。この短い間、生活習慣や人生の目標、体型までいろいろ変わりましたが、自分にもっとも変化が起きたのは、なかなか変わることはない性格だと思います。

日本に来るまでの19年の間、私はどちらかといえば引込み思案のほうで、みんなで集まるより一人静かに遊ぶのが好きでした。友達はいるがそれでも一人で時間が多し、友達以外の人とほとんど喋りません。日本に来て最初のころは以前と変わりなく、テレビなどは見ても日本語で喋ることはほとんどありませんでした。でも、半年が経ったころにはもう人の話を聞いてわかるようになり、これで日本で生きていけると思うようになりました。あの出来事が起こるまででしたが。

それはある日役所に行ったときでした。手続きをしている途中、事務員にいろいろ説明されました。もちろん聞いてわかりましたが、口をあげた瞬間自分でも驚くほどたどたどしく、訛っている日本語が出てきま

した。結局事務員に日本語がよくわからない人だと思われ、ジェスチャーをいっぱい使い、手話のように説明してくれました。あの時すごく馬鹿にされた感じでしたが、後に自分の足りなさに気づき、ある決心をしました。

その日から一所懸命「喋る」のに努力するようになりました。知らないクラスメートにも、タクシーの運転手にも、飛行機の隣席の人にもできるならば話しかけることにしました。しかもこんなことは日本でだけでなく、中国でもしています。なぜなら、私にかけているのは日本語能力以前に話す力です。今まで話していなかった分をそんな努力で取り返しています。

そして今になって、人に話しかけるのが習慣になり、性格までなんだか明るくなりました。そのおかげで日本でいい仲間がいっぱいできたし、通訳の仕事も入ったし、OSFという大きな家族にも入れました。今振り返ってみるとすごく成長したなと思います。

張 笑（奨学生） 中国（河北省）  
早稲田大学 アジア太平洋研究科 国際関係専攻



### 日本に来て一番感動したこと

日本に来る前、周りの人から「日本人は冷たい、日本人は外国人のことが嫌いだ」と聞きました。そのため、私は不安な気持ちのまま、日本にやってきました。

日本に来て、もう8年目になります。いろいろなことを体験しましたが、その中で一番感動したのは、2005年の12月の出来事でした。寒かった冬のある日、私は財布の中を整理した時、外国人登録証が入っていないことに気づきました。しかし、いつ、どこで落としたのかを全然覚えていないので、焦って混乱しました。すぐ大学の友達に聞いて、そして駅付近、大学やアルバイト先などで登録証が落ちていないか尋ねましたが、結局見つかりませんでした。もう、次の日から市役所と警察署へ報告しに行くしかないと考えていました。

とても落ち込んでいたので、帰宅する時、いつも通っているコンビニで大好きな紅茶を購入しようと思いました。レジで会計をした時、突然、店員さんに声を掛けられました。「お客様、落とし物はありませんか？」

え？まさか...とびっくりした時、店員さんは一枚の外国人登録証を持って来て、「こちらはお客様のものでしょうか、ご確認ください。」と言いました。確認したら、本当に私の登録証でした。とても嬉しくて、店員のお兄さんに何回もお礼を言いました。なぜ登録証がこちらにあるのかと聞いたら、「常連さんの落とし物だから、大切に保管していました」という答えが返ってきました。その瞬間、日本人は本当にお客さんのことを大事にして、私のような外国人のことも大切にしてくれるのを実感しました。日本人の親切さにとても感動しました。最後に、お店を出る時、「大切なものですので、お気をつけください。」とも言ってくれました。その日はとても寒い冬の夜でしたが、私の心は暖かかったです。

その後、私もコンビニで働き始めました。いつも笑顔で、お客様に親切な態度、丁寧な言葉遣い、素晴らしいサービスを提供できるよう頑張っています。

## 留インドネシア旅行

(お世話になりっぱなしの旅行)

財団評議員・日本語教師 佐野 靖彦

岡本財団の日本語教室でお手伝いを始めて約8年が過ぎる。その間、留学生150名位の日本語勉強のお手伝いをしただろうか。今回、インドネシアへ行く機会があり元留学生の生徒さん達に会う事が出来た。

岡本財団は奨学金事業、寄宿舎事業、日本語教室事業等を行っている。そしてその留学生に接する方針は「家族主義」だ。創立者の会長ご夫妻とその息子家族、娘家族、総出による財団運営だ。創立時代からの支援者そして財団の趣旨を理解したボランティアが関わっている。

1909年霧の深いロンドンの町をあるアメリカ人紳士が歩いていた。訪ねる家が分からなくて困っていると霧の中から少年が現れ、遠い道のりをその家まで案内した。少年は名前を告げずに消えていった。この紳士、ウィリアム・ボイスは感銘し、アメリカにボーイスカウト活動を導入した。「ひとのお世話はするように。そしてむくいを求めぬよう。」(ボーイスカウト日本連盟・初代総長、後藤新平)

会長婦人の勧めでボーイスカウトに入団した理事長を筆頭に、留学生のオアシスたらしめる財団の精神は全ての面で発揮されている。311の東日本大震災直後に理事長の「オアシス携帯・・悩みの相談メールが日本のみならず、世界中から入ってくる」に心配するメール・電話あるいはFAXが150通以上、内外から届いたそうだ。財団のOBの数約300名の半数(50%)以上からの連絡!!

生徒達との結びつきの強さが理解できる。

さて、28泊に渡るインドネシア旅行は恵まれた旅行に始まり貧乏旅行に終わった珍しい体験続きのしかし有意義な旅行だった。

誘ってくれた同行者が滞在費の全てを負担してくれた前半と打って変わり後半は同行者の体調が思わしくなく一人で行動する事となった。予備の金、僅か。更に帰りの航空券は取り消しが利かない航空券と判り、早めに帰国する事も出来ない。僅かな所持金で残りの14泊15日の耐久生活をする事となった。勿論、元留学生に金欠は内緒だ。

まずバリ島で裕福な外国人が居るサヌール、地元のラーメン屋(バリ島はイスラム教ではなくヒンズー教なのでアルコール可)で知り合った日本人宅にお世話になった。プール(管理庭師付き)・温水シャワー・浴槽付の豪邸にびっくり・・1泊(食事なし)。次にラーメン屋の主人宅に1泊。同じく温水シャワー・浴槽付きの豪邸だった。翌日からラーメン屋の紹介でベルギー人が経営していた元ホテルの空き部屋・・6泊(水シャワー・朝食は彼の食堂で、徒歩30分)。深夜一時過ぎに戻って来て、朝6時には店に行く猛烈経営者。片言のドイツ語で又フランス語で話しかけるとニンマリ。当然昼食なしの節約。夕食はラーメン。元留学生が差し入れてくれた果物・お菓子で栄養補給。

それでも更に金が無くなり・・・元留学生に相談(苦笑)・・・元留学生の部屋に泊まるよう提案されたが、独身女性一人住まいなので勿論没・・・元留学生の友人宅に6泊(水シャワー・3食付)。着替え用の薄い短パンの差し入れ・必需品である交流電源変換用の器具購入等々世話になった。仕事の合間に毎日、バイクで訪ねに来てくれた。

バリ島在住日本人女性経営者のお世話になった旅行。元留学生のお世話になりっぱなしの旅行。

全て岡本財団のお陰だ。感謝!感謝!

## 卒業 おめでとう

震災の影響で各大学とも卒業式は中止になったが、財団の多数の卒業生が訪ねてくれた。

みなさんおめでとうございます。



## 新年度スタート!

4月8日奨学生、20日会館生・緑町宿舎の今年度初例会が行われた。震災に負けないみんなの明るい笑顔に会えて、やっと春がやってきたように感じた。

この一年、仲良く、楽しく、元気でいよう!

会館では金雪英さん(中国)、計俊傑君(中国)、宋沃炷さん(韓国)の3人が退館。長い間ありがとう!また、新しい仲間としてヘインソピーさん(カンボジア、千葉大)、ピャンパドルジメンドバヤル君(モンゴル、千葉大)が入居。

これからよろしくお願ひします。

# トピックスTopics!

## 励ましのメール、ありがとうございました

大震災から一ヶ月半が経とうとしている。その間、国内はもとより世界中の財団OB達から励ましのメールをいただいた。その数、約160通。本当にありがとうございました。励ましだけではなく、なかには私たちの所に(避難して)来て下さい。と言って下さる人もいた。感謝している。幸いなことに私たちの住んでいる千葉の内陸はほとんど被害がなく、前と変わらぬ日々を送ることができている。でも、東北の被害者のことを思うと、眠れぬほどの喪失感、悲しみが胸の中にいつもある。これからは彼らのことを一番に考え、できるだけ痛みを共有できたらと思っている。みなさん、これからも温かく私たちを見守っててください。エールを送ってください。いただいたメールのいくつかを紹介したい。

テレビや新聞で被害者の方々の様子を見た時、心が張り裂けそうな気持ちになりました。報道を見ているだけでも家族皆の涙が出ましたし、日本人の精神、マナー等を凄く感激致しました。大変辛い状態が続いていることと思いますが、どうか日本人皆様、是非、強く、強く生きていきましょう！皆様の力強さが、必ず被災地を、日本を元気にします！日本人は、無い物から新しい物を作り出す能力があると思います。もうなんといっていいいか？ご無事でありますように。

こんな大変な時期に、いつもきちんと自分のことを管理できていて日本人は、誰も文句を言わず 平然として、食料や生活用品の不足にも、停電の実施や交通機関の不通にも素直に受けて、地震後の片付けや元の生活に回復することを心強く頑張っている姿に感心しました。原発の心配はありますが、日本のみなさんはきっと最小限度の被害に収めるよう努力し尽くしていくと思います。がんばってください！

### 会館生お花見会



趙さんとヤンヤン



金潤秀さん

皆様、大丈夫でしょうか。我々ウイグル人はこれまでに日本政府、日本国民から多大な支援を頂き、大変お世話になってきました。今回の地震に対し少しでも支援できたらと思い、地震災害への募金活動を始めることにしています。

被災地は、連日氷点下とのことですので、被災者の皆様はとも苦しい生活を送っていると思います。被災者の皆様のことを考えると、涙が出てきますが、日本ならばこの苦境を乗り越えてくれると信じています。

毎日テレビで地震のニュースを見て心が痛みます。本当にひどすぎます。被害地の方の状況を思うと、涙が出るくらい悲しい気持ちになります。がんばれ、にっぼん！負けるわけにはいかないのです。

### OB 来団

3月25日、家族宿舎の趙連偉さん(H10 中国)が息子さんのヤンヤンと一緒に来団。当時は保育園に通っていたが、この春から中学生になる。時の経つのは早いものだ。

3月29日、家族宿舎の時代さん(H15 中国)が帰国の挨拶に来団。彼女は学業の傍ら、ボランティア活動にも熱心に取り組んできた。母国で大学の先生になるとのこと。がんばって下さい！

4月12日、金潤秀さん(H17 奨学生、韓国)が帰国の挨拶に来団。主婦と母親と学業を両立させ、大変だったろう。

### 赤ちゃん誕生

4月3日、家族宿舎のチーさん(ベトナム、麗澤大)に長男誕生。

4月14日、李志さん(H18 奨学生、中国)に長男誕生。

おめでとう！ 明るいニュースにホッとする。

4月13日、会館生の花見会を実施。今回は千葉大近くの西千葉公園で。

みんな元気いっぱいだった。

### OSF 2011 年度前期行事予定

5月11日	会館生・緑町宿舎例会
5月14日・15日	奨学生一泊旅行
6月8日	役員会
6月10日	奨学生例会
6月15日	会館生・緑町宿舎例会

7月3日	会館OB会(バーベキュー)
7月12日	奨学生例会
8月5.6.7日	広島原爆慰霊祭参加
8月11.12.13日	鴨川海水浴
9月8日	奨学生例会
9月14日	会館生・緑町宿舎例会

4月29日から5月8日までOSFはお休みです。